

指導教員名	白 貞壬
-------	------

活動区分	地域活性化型	連携先	自治体・国

～ 洲本市×流通科学大学 域学連携プロジェクト ～

活動の様子



ダムカレー試作品の完成



ダムカレー試作品づくり(1)



ダムカレー試作品づくり(2)

企画・活動概要

2022年度洲本市×流通科学大学域学連携プロジェクトでは、「鮎屋地区」の観光資源・特産品を活用した地域活性化を提案する。取り上げられたいくつかのテーマ例の中で、キャンプ場の活性化やそのPR方法について取り組みたい。



フィールドワーク

経緯・背景・目的

「忙しい生活から離れ、自然を巡り幸せを循環させる」というコンセプトの下、鮎屋の大自然を五感で感じることで、現代人のストレスや疲れを解消していくことを目指す。



最終プレゼンテーション

取り組む課題

アンケート調査の結果から、まだキャンプをしたことがあっても、キャンプでの食事の支度はそれほど簡単ではないという問題に着目する。キャンプ場まで食材を持って行って調理するのに手間暇かけず、特に味覚にフォーカスを当てた「簡単キャンプ飯」づくりを提案する。



鮎屋キャンプ場予定地で簡単キャンプ飯づくりに挑戦

本学(学生)の役割

1)キャンプ場の成功事例を紹介し、成功要因を分析する、2)近隣地域のキャンプ場の状況を把握し、鮎屋地区だけの差別化要素を探し出す、3)鮎屋地区の大きな観光資源としての「鮎屋川ダム」と簡単キャンプ飯としての「カレー」に注目する、4)キャンプ場の過ごし方の一つとして「楽しいイベント」を提案する、5)日本ダムカレー協会のHPにアクセスし、ダムカレーコンテストの企画内容を考える、6)地元の方に支援していただきながら、食材の買い出しからダムカレー試作品づくりに挑戦、7)鮎屋キャンプ場でダムカレーコンテストを成功させるために、必ず備えつけるべきことを練り直す。



ダムカレーコンテスト企画内容の提案

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

参加学生11名は日本人だけではなく、韓国・ベトナム・中国・インドネシアからの留学生によって構成されている。国際色豊かな構成メンバーで、様々な意見、少し変わった意見を取り入れることを意識していた結果、このように独創的な提案ができたことで優秀賞につながっていた。ゼミのみんなと一つのことに取り組んだことや、試作品づくりに鮎屋に行った際に、地元の方々との交流は何より貴重な経験になった。



見事に優秀賞獲得

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>

商学部
マーケティング学科
教授
白 貞壬(ベック ジョンイム)

<専門・担当科目等>
アジア市場論、小売国際化論、海外マーケティング研修、
流通科学入門、マーケティングへのいざない等

<関係者・企業等>

洲本市役所企画情報部企画課
高橋 啓(タカハシ ハジメ)

鮎屋キャンプ場で洲本市産食材を用いてダムカレーの試作や、その様子など写真や映像に収めて鮎屋キャンプ場のPRに用いる企画(2022年8月5日実施)に当たって、キャンプ道具や炊事場の提供、地元の方の紹介等々最初から最後まで多大な支援をしていただいた。